



THE HIROSAKI UNIVERSITY LIBRARY BULLETIN

弘前大学附属図書館報 No.33 2011.5

目次	
巻頭言 東日本大震災に思う	1
特集 図書館情報システムの更新	3
特集 新たに指定された貴重資料	5
本との出会いを楽しむ〈第7回〉	6
図書館に関する話題〈第7回〉	8
Library News	9
図書館のグループ紹介	11
本学教員等著作寄贈図書・資料一覧	12

東日本大震災に思う



附属図書館長 長谷川 成一

本年（2011年）3月11日の東日本大震災は、マグニチュード9.0の巨大地震とその後の巨大津波によって、我が国の災害史上、未曾有の規模の被害を及ぼしました。5月1日において死者1万4,701人、行方不明1万969人、避難者12万6,372人にのぼっています（『朝日新聞』2011年5月2日朝刊）。加えて、福島第一原子力発電所における事故が広域にわたる放射能汚染を引き起こし、我が国では経験したことのない複合災害の様相を呈しました。

現在、官民あげて懸命な復旧・復興に取りかかっている最中ですが、本学では被災地への学生ボランティアや医師等の派遣（DMAT、被ばく調査等）、被災大学への救援物資提供などの救援・支援活動を展開しています。

本学附属図書館では、幸いなことに本館・分館ともに被害がなく、被災当日、館内にいた学生・職員にも怪我をした人はおらず、館長としても安堵したことでした。3月18日午前9時、国立大学図書館協会（略称は国大図協）から、被災した大学の教職員・学生が他大学の図書館の利用を申し

出た場合、是非協力をお願いしたいとの緊急要請が届きました。本館では直ちに協議して、同日の午前11時前には要請を受け入れる旨を国大図協へ回答をしました。その段階では、国大図協の要請に応じたのは、東北地方の国立大学では弘前大学のみでした。

毎日、震災の報道が新聞紙上に大きく取り上げられ、諸君も大きな関心を寄せて記事を読んでいることでしょう。私は、先年、中央防災会議の「災害教訓の継承に関する専門調査会」に所属して、我が国の巨大な歴史災害（地震に限らず、津波・火災・風水害など）の解明と分析を通じた、災害教訓を考察する作業に従事しました。

このたびの東日本大震災の被災地域が、青森・岩手・宮城・福島・茨城県など、おおむね太平洋沿岸地域であった点や巨大な津波災害だったことから、明治29年（1896）6月15日の「明治三陸地震津波」（三陸大津波と略記）との比較で言及されることが多いように見受けられます。三陸大津波はM8.2-8.5の巨大地震によって起こり、死者は2万1,915人にのぼっていますので、確かに、

その点ではこのたびの震災と似かよった災害でした。子細に見てみると、三陸大津波は午後7時32分ころ、震災は午後2時46分の地震の後、約30分後に津波が襲来しています。三陸大津波の被害が甚大であったのは、夜間の津波襲来であったため、電灯のない115年前の夜は現在とは比べようもないほど暗く、暗闇で避難が困難であったことが原因としてあげられています。加えて、午後7時半ころに起きた地震は、緩やかな長く続く地震動であったので、人々がさして気に留めずにいたところ、そこに巨大な津波が不意に襲来したことにあります。

詳細は省きますが、三陸大津波の災害教訓の中から、改めて我々が学ばなければならないことを述べましょう。このたびの震災では、強い地震動を感じたら沿岸部の住民は直ちに高台へ避難することが大事だということが改めて認識されました。このことは、すでに三陸大津波の被災後も教訓として広く喧伝されました。

前述のように、明治の三陸大津波では強い地震動がありませんでしたが、その40年前に三陸を襲った、安政3年7月23日（西暦1856年8月23日）の大地震と大津波では、2回の強い地震動のうち4波にわたる大津波が三陸海岸に押し寄せて大きな被害を出しました。安政地震と津波に遭遇し被災した人々の記憶には、強い地震動の後に津

波が来襲するということが刷り込まれていて、三陸大津波は強い地震動を引き起こさなかったのに、津波に対する警戒がおろそかになり避難するのが遅れて甚大な被害を受けたという説もあります。

もう一つ、津波には多様性があります。「津波は引き潮から始まる」という言いつたえは、今日でもよく聞かれますが、津波は必ずしも引き波で始まるわけではありません。「揺れたら逃げる」を徹底することが津波被害から生き延びるためのもっとも重要な教訓です。自身の体験による教訓は大切ですが、過去の経験のみに基づいた判断が正しいとは限りません。津波災害に限らず、これから本学において新たな大学生活を始める新入生諸君にとっても、このことは勉学に精励する上で大事な教訓ではないでしょうか。私自身への自戒を込めて伝達し、希望溢れる皆さんへのエールとします。

【参考文献】

- ・国立歴史民俗博物館編『ドキュメント災害史1703-2003—地震・噴火・津波、そして復興—』（平成15年6月刊）
- ・中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査部会」編『1896 明治三陸地震津波報告書』（平成17年3月刊）

（はせがわ せいいち）

岩手県野田村における本学学生ボランティアの活動（写真は人文学部・山口恵子准教授の提供）



側溝に溜った泥やガレキをかき出す作業



体育館の中で衣類の仕分け作業をする様子

特集 図書館情報システムの更新

図書館OPACから使える新機能

資料管理グループ係長 齋藤 香織

平成23年2月に、新しい図書館情報システムが導入されました。ここでは便利になった点や新しい機能の主なものについて紹介します。

1. OPAC

(URL: <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/opc/>)

以前に比べ、ずっとシンプルな検索画面（簡易検索）になりました。



・「フリーワード」

書名、著者、出版社、キーワード、ISBN、図書ID等のうち1つでも複数でも順不同で入力します。気軽に検索できるのが特長です。条件を細かく指定したい場合は、上部の「詳細検索」をクリックすると、画面が切り替わります。

・「資料区分」

従来の図書・雑誌以外に、視聴覚資料、電子ブック、雑誌特集記事を指定して検索できるようになりました。

・「新着図書」・「新着雑誌」

日付ごとに最新のものから表示されるようになりました。置かれているコーナー名や請求記号等も表示されます。

・予約・取り寄せ（学内者のみ）

OPACで検索し、借りたい図書が貸出中だった場合、検索結果の画面から自分で簡単に予約をかけることができます。また、借りたい図書がいつも利用する館とは別の館にある場合、取り寄せ依頼をして、いつもの館から借りることができます。ID、パスワードを要求されますが、下記マイライブラリで使用するものと同じです。

・「言語」・「配架場所」（詳細検索のみ）

言語や配架場所（図書・雑誌が置いてあるコーナー）を一覧から指定できるようになりました。

2. 携帯版 OPAC

携帯電話からも、いくつかのサービスが利用できるようになりました。

・「図書館からのお知らせ」、「蔵書検索」、「貸出状況確認」、「休館日カレンダー」が利用できます。

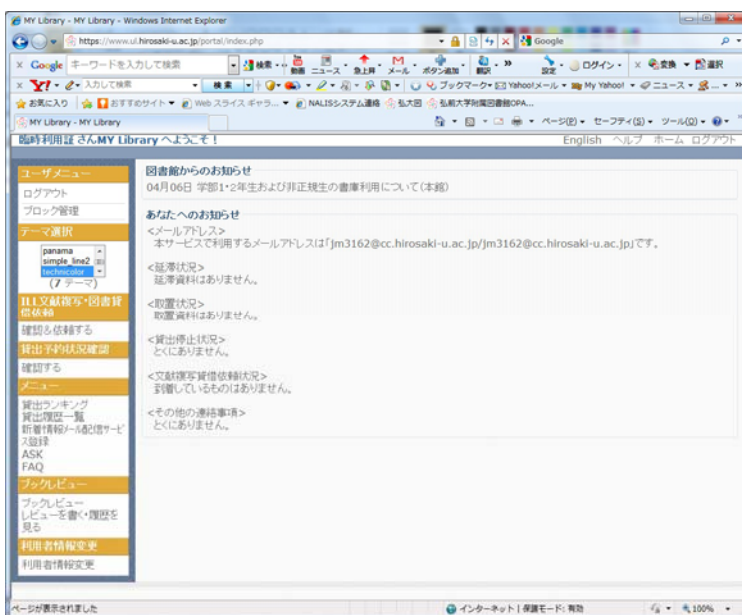
・「蔵書検索」では、図書・雑誌の別、所蔵館、キーワードを指定して検索します。

学内の方は、Web版OPACと同様、予約や取り寄せの機能を利用できます。

3. マイライブラリ

マイライブラリ (MyLibrary) とは、図書館利用に関する個人専用のページです。学内所属の方は、ほとんどの機能をすぐに利用できる状態に設定されています。OPAC 画面上にはられているマイライブラリへのリンクからご利用ください。ログインするにはIDとパスワードが必要ですが、これは大学より交付されたメールアドレスとそのパスワードを入力してください。

下記がマイライブラリの初期画面です。自分の好みに合わせて画面のデザイン (テーマ選択) や項目の表示箇所 (ブロック管理) などを変更できます。



A. トップページのお知らせ

予約や取寄せを依頼した資料が利用可能になった場合、延滞図書がある場合など、メッセージが表示されます。

B. 貸出予約状況確認

自分が現在借りている図書の書名、返却期限等が見られます。また、自分の予約状況もチェックすることができます。(予約自体は OPAC から行います。)

C. 貸出履歴一覧

新しい方から 100 件まで、以前借りた図書の一覧が見られます。テキストファイルに保存することもできます。

D. 新着情報メール配信サービス登録

検索用のキーワードを登録しておく

と、定期的に新着図書の検索結果がメールで届きます。特定のテーマで継続的に研究・学習している場合、時間をかけて卒論準備をしたい場合などに便利です。

E. ASK

図書館あてに質問・要望を送ることができます。回答の要・不要が指定できます。

F. ブックレビュー

自分が読んだ図書についてのレビューを投稿することができます。実名ではなく、ペンネームを使うことも可能です。

G. ILL 文献複写・図書貸借依頼

以前から提供していたサービスですが、マイライブラリの中の 1 機能という扱いになりました。以前から利用されていた方は、引き続きご利用いただけます。

新規に利用を希望される方は、学生証 (または利用証) 持参の上、参考調査カウンターまたは医学部分館カウンターまでお申し出ください。

(さいとう かおり)

図書館ホームページのご案内

利用についての詳細情報やお知らせ等を発信していますので、下記 URL よりご利用下さい。
<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/> (本館)
<http://hippo.med.hirosaki-u.ac.jp/~mlib/> (分館)
<http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/mobile/> (携帯版)



QR コード

特集 新たに指定された貴重資料

おさない 「小山内家文書」

附属図書館長 長谷川 成一

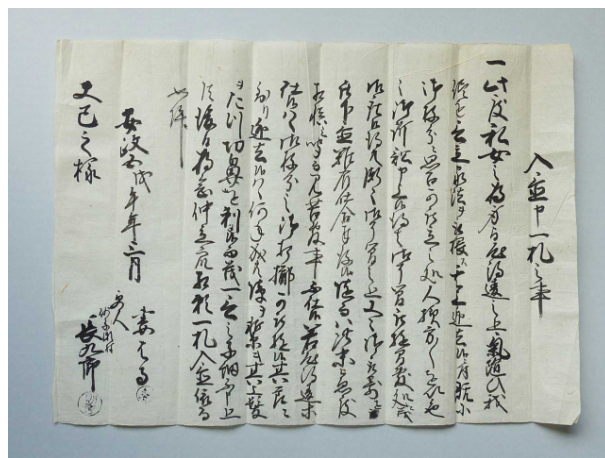


このたび、新たに貴重資料に指定された「小山内家文書」を紹介します。資料の総数は1,530点に及び、個々の資料については、附属図書館ホームページにアップしている「小山内家文書目録」を参照して下さい。

本資料は、豊田村（現弘前市大字豊田）村長を務め、弘前市議会議員であった小山内淳四郎氏（1904-63）から、本学が昭和37年（1962）11月15日に寄贈を受けたものです。受入れの際に、附属図書館において若干の整理を行いました。本格的な調査と分類・整理はなされないまま、新書庫5層に保管されていました。この間、一部の資料が、『新編弘前市史 資料編3（近世編2）』（平成12年刊）に掲載されることはありましたが、目録がなく公開できる状況になかったため、大部分の資料は未公開のままでした。そのようななかで、当文書の整理は、長谷川の指導のもと、十数年をかけて人文学部日本史研究室のゼミ生、大学院生で実施し、資料目録の作成にいたりしました。

周知のように津軽地方では、弘前市立弘前図書館の津軽家文書をはじめ藩政資料が多く継承・保存されてきました。反面、農村資料の残存は稀少であり、本資料は津軽地方の近世から近代にかけての地方（じかた）文書（農村資料の総称）なことから、その意味でも貴重な資料群です。小山内家は、藩政時代に小比内村の庄屋を務め、堀越組の小比内村・高田村・取上村等の土地台帳や村政の実務に関する史資料を同家で保管してきました。したがって、弘前城下近郊農村のあり方を研究する上で貴重な資料群といえましょう。目を引くのは、明和期（1760年代）から残存する、土地の移動に関する大量の証書類であって、それらは、おおむね小比内村・外崎村等の借銀銭による小規模な土地の売買に関わるものです。

藩政期の資料中で、資料番号345号の安政5年（1858）3月「はる詫状」は、特筆すべき内容であり、女性史の研究に大いに資する文書です。写真版を掲載しましたのでご覧下さい。



「はる詫状」安政5年（1858）3月

近代の資料は、中津軽郡の郡役所資料と戸長を務めた小山内家の戸長役場関係資料が多くを占め、近代の土地台帳や大小区制下における基本資料類で構成されています。そのほか、地租・地稅関係資料も豊富であり、明治10年（1877）から同22年に至る大量の地券は、小山内家の土地集積の状況を窺うことができる好資料です。小山内家は小比内村において農業を家業としつつも土地集積をはかり、地主として村内外の人々と小作関係を結びました。同家の土地集積と小作関係に関する史資料は膨大であり、従来の研究史では空白の分野であったことから、当該資料を用いての研究の深化が望まれます。

（はせがわ せいいち）

本との出会いを楽しむ 第7回

とにかく、読んでみよう。

教育学部准教授 山本 欣司



出会い 読書が趣味になったのは、ある本との出会いがきっかけです。私の通っていた小学校では、新しく購入した本のカバーはすべて剥がし、図書室脇の掲示板に貼り出すようになっていました。『走れ！ おく目号』というタイトルと表紙の絵を見て、何となく面白そうだと感じた私は、ために借りてみたのです。小学校の三年生くらいでしょうか。



親からは読書を勧められていましたが、面倒だったのか、私はそれまで本を読まない子どもでした。が、ぬいぐるみの熊とともに子ども達が見知らぬ世界で冒険する『走れ！ おく目号』の面白さ

に夢中になった私は、この作家の作品を図書室から順々に借りては読み、いつしか読書の魅力に取り付かれてしまったのです。ファンタジーから偉人の伝記、当時定番の怪盗ルパンや怪人二十面相シリーズなど、図書室で手当たり次第に本を借り、読みふけたものです。中学生くらいになると、父親の本棚から司馬遼太郎や山本周五郎といった歴史小説を引っ張り出して読みました。映画とのタイアップで売り出されていた松本清張や森村誠一などの推理小説もよく読みました。

ただし、現在の職業からすると意外がられるのですが、当時、私の国語の成績はよくなかったで

す。今思うと小説のストーリーを追いかけるのに夢中で、細かな表現をおろそかにする読書が続いていたからだと思います。一週間に何冊読んだか、一冊を何時間で読み終えたかを自慢するような意識で小説に向かっていた私は、たった一行、たった一言に込められた想いをめぐり、ちゃんと立ち止まって考えるような、意識的な読書をしていなかったんだと思います。読書量への自負もありましたし、読んで感動した以上、自分はちゃんとその小説が理解できていると思い込んでいました。へんなプライドを持っていたため、国語の授業をまじめにうけようとせず、ノートも取りませんでした。

転機 本の読み方が変化したのは、大学受験がきっかけです。それまで私は、暗そう・偉そうという先入観から文学作品を避けていたのですが、高三の夏、芥川龍之介の小説と出会いました。模試の成績を上げたいとの不純な動機からですが、読んでみると文学は「ただの面白い小説だ！」と目から鱗の落ちる思いがし、ここから文学三昧が始まったのです。ちょっとした描写の鮮やかさに驚き、凝った表現にうならされ、一つの作品を何度も読み返すうち別の解釈に気づくこともある。これまでの読書で味わっていたのは別種の面白さに打たれた私は、大学で文学を学ぼうと決意しました。丁寧に本を読む習慣が身につくと、国語の成績も上がりました。

大学へ入ってからは、大好きな小説を読むこと＝研究となり、充実した時間がすごせたと感じます。本当に興味のあることを学べるというのが、大学生活の醍醐味ではないでしょうか。

(やまもと きんじ)

山本欣司先生は平成23年3月31日付で本学を退職されました。
これまでの沢山のご指導に感謝いたしますと共に、今後のさらなるご活躍をお祈りいたします。

本との出会いを楽しむ 第7回

お気に入りの1冊

農学生命科学部教授 石川 隆二



アメリカの大型書店バーズ&ノーブル、とある映画のモデルになったようなところですが、留学中にはかなり頻繁に通った記憶があります。いまでは日本でも本屋さん椅子を置いてあるところもありますが、20年くらい前とあっては、「本当にこれで売れるの？」という不思議な気持ちを持ったものです。そうでなくても地べたに座り込みながら本を読んでいる人も多く、居心地の良い音楽を静かに流しながら、時には講演をおこないながらサロンとして機能していたのでしょうか。

私のお気に入りは理系書ですが、それ以外でも昔読んだお気に入りのサイエンスフィクション（SF）の朗読版のカセットなども置いてあり、数本買って聞いていました。朗読者が目の悪い方に読み聞かせるためのものでしたが、SFだったため男の朗読者が男役、女役、まさしく老若男女の活躍で、聞いていておもしろかったことを覚えています。

日本でも椅子をおいて本当にお気に入りのものを買ってもらえるようなところが増えてきたようです。その点、図書館はただですから気が楽ですね。昔は本の揃えが少なかったように思いますが大学も蔵書数を着実に増やしており、おもしろい本が増えてきたようです。買うかどうか迷っている時でも気軽に試せるのが図書館のメリットでしょうか。

本学の図書館ではSFではなくて、自分の知らないことと出会うために本を手にとることが多いように思います。理系人間にありがちなように歴史に疎いところがありますが、外国での調査旅行のために現地の歴史を知ることが目的に本をとることが多くなりました。また、専門分野外の方と仕事をするときにはなおさら他分野の本を手にとって、その分野の“感覚”のようなものを知ることにも努めています。最近でいえば考古学、民俗学、初期の海外探検航海や暗黒大陸と呼ばれるような未知の大陸内陸部探検ものなども読みました。このような知識は単なる基礎知識というよりも、相手がどのような背景でものを考えているか、その土地で暮らしているかなどを知る上で非常に役立ちました。仕事を超えての会話を現地の方などと楽しむこともできるようになりました。

このページを書くことになってざっと本学図書館内を散策しましたが、専門外の棚にも自分に関連するようなことに触れている本を見つけることもできました。そのうち、お気に入りをみつけたらきっと購入して自分の本棚に入れることになるでしょう。そして自分の椅子に座ってゆったりと読書を楽しむつもりです。

(いしかわ りゅうじ)

図書館に関する話題 第7回

「遺伝子組み換え食品って何？」

平成 21 年度理系図書整備予算購入図書の紹介

農学生命科学部准教授 千田 峰生

「遺伝子組み換え食品って何？」は農山漁村文化協会が 1997 年に制作した 43 分の DVD で、遺伝子組み換え食品とは遺伝子組み換え作物を原料とした食品です。私は農学生命科学部で植物バイオテクノロジーを教えているのですが、板書とプリントを用いております。そのため、遺伝子組み換え作物はどのようなものを映像で見せたり、遺伝子組み換え技術をイラストで解説してくれるような DVD があれば、補助教材として役立つのではと考えておりました。それでネットの検索ソフトで調べたところ、この DVD が出てきたので附属図書館に購入を推薦しました。しかしながら、私が意図していたものとは異なり、遺伝子組み換え作物反対派を代弁するような代物でした。よく考えると、これが制作された 1997 年は遺伝子組み換え作物がアメリカで栽培され始め、「遺伝子組み換え作物は危険である」という風潮が日本でもマスコミを通じて起きた頃だと思われれます。したがって、この DVD は必ずしも中立的な立場で制作されたものとは思えません。ですが、遺伝子組み換え作物は通常の作物と全く変わらないことが映像でわかりますし、遺伝子組み換え技術をわかりやすいイラストで解説しているため、その部分に限れば、補助教材として十分役立つものと考えられます。

それでは 1997 年から 10 年以上経った今、遺伝子組み換え作物はどうなっているかというとその勢いは衰えておらず、作付面積が拡大しているのが現状です。私は遺伝子組み換え作物の推進論者でも反対論者でもなく、授業では客観的に遺伝子組み換え作物の話をしているつもりです。そして学生に必ず話すことがあります。それは「遺伝子組み換え作物や遺伝子組み換え食品は自分たちに関係ないと思っているかもしれませんが、それはありえませんか」ということです。日本には、遺伝子組み換え作物を原料に使用しても法的に表示義務のない食品がありますし、もし TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が締結されれば、今後遺伝子組み換え作物の輸入量がさらに増加することも予想されます（現在でも大量に輸入されている事実をお忘れなく）。皆さんは、価格がかなり高くなっても遺伝子非組み換え食品にこだわるか、それとも安い遺伝子組み換え食品にするか、どちらを選択しますか？近い将来、各個人の判断が必要とされる時期が来るかもしれません。今後、日本が食糧自給率を上げなければ、その選択さえ許されない時代が来るかもしれません。

(せんだ みねお)

今回、千田先生にご紹介いただいた資料はこちらです！

『遺伝子組み換え食品って何？』（輸入食品の安全性を問うシリーズ Part2）
（農山漁村文化協会/農文協 VIDEO）

図書 ID : 07806644 請求記号 498.54 || Y98 || 2
本館 3 階視聴覚室で利用できます。

PC サテライト リニューアルオープン

総合情報処理センターの計算機システムの更新に合わせ、2月1日に附属図書館2階にあったPCコーナーを3階に移設し、新たにPCサテライトとしてリニューアルオープンしました。

附属図書館のPCコーナーのパソコン端末は、総合情報処理センターのサテライト設備ですが、学内の立地条件に恵まれているせいか、同センターが設置しているPCサテライトのうち、最も利用率の高いサテライトです。

これまで2階にあったPCコーナーの面積は56㎡で、PC30台の端末が設置されていましたがいつも満席のため、学生の皆さんからは増設を望む声が寄せられていました。今回のリニューアルでは、3階の無線LAN・視聴覚室94㎡を改修し、ここにコーナーを移設することで端末機20台を増設し計50台にしました。これにより狭隘化と混雑は緩和されるものと思います。加えて、一つの部屋として仕切り、空調設備を完備しましたので夏場の利用環境も改善されることと思います。電源やLANケーブルは、床下配線として利用者の移動の妨げにならないよう配慮し、通路側の壁は開放感のあるガラス壁としました。

また、リニューアルしたPCコーナーの隣の研修室では無線LANを利用できるように常時開放することとしましたので、PCを持込む場合はここをご利用いただけます。

不明な点がありましたら、職員へお気軽にお尋ねください。新たな設備で快適に学習、研究が進むよう願っています。

(前学術情報課長 酒井量基)



附属図書館3階 PCサテライト

平成22年度附属図書館職員研修

～外国人留学生(特別聴講学生)の図書館利用をサポートする～

3月1日、国際交流センターのサワダ ハンナ准教授を講師に迎え、～外国人留学生(特別聴講学生)の図書館利用をサポートする～をテーマに留学生の皆さんに大いに図書館を利用していただくために留



本館メインカウンターでの実習の様子

学生対応の職員研修を実施しました。研修では、留学生のアンケート結果などを話題に講義していただき、実演のための英会話レッスンを行った後、課題ごとにロールプレイングによる実習を行いました。情報サービスグループによる利用ガイダンス、館内注意事項の説明など各グループによる留学生対応のロールプレイングでは、ハンナ先生のアドバイスをいただき有意義な実習となりました。

今回の研修により留学生図書館利用ガイダンスが留学生にわかりやすいものとなり、留学生の皆さんが大いに図書館を利用してくれることを期

待するとともに、研修を通して利用者対応についてのスキルアップと利用者サービスの向上に生かしていきたいと思います。
(前企画管理グループ係長 小山内英子)

「弘前大学学術情報リポジトリ」の 世界ランキング入りについて(続報)

「豊泉」第32号(平成22年11月30日)にて本学機関リポジトリ(弘前大学学術情報リポジトリ)の世界リポジトリ・ランキング入りをご報告しましたが、この度2011年1月版において、前回から大幅にランクアップし、世界第123位(国内第19位)にランキングされました。

(世界リポジトリ・ランキング URL: <http://repositories.webometrics.info/toprep.asp>)

今回のランキングでは、Google、Yahoo 等からの検索可能なページ数やリポジトリへの外部リンク数が大幅にランクアップしており、本学の研究成果への注目度が高くなってきているものと考えられます。

「弘前大学学術情報リポジトリ」は日々コンテンツ数を増やしていますが、より充実させるためには教員の皆様のご協力が必要です。
(前資料管理グループ係長 三上 豊)

「弘前大学学術情報リポジトリ」では教育・研究成果を募集しています。

1. 登録できる方

弘前大学に在籍中、または在籍したことのある役員、職員、大学院生です。

2. 登録対象となるコンテンツ

雑誌論文、紀要論文、学位論文、修士論文、科学研究費研究成果報告書、プレプリント、学会発表資料、図書、教材など弘前大学において研究・教育活動によって生み出されたすべての教育・研究成果が対象となります。

3. 登録方法

- ・ 登録可能な教育・研究成果の情報を電子メールで4.のメールアドレスにお送りください。
- ・ お知らせいただく教育・研究成果で電子ファイルや資料(冊子、別刷、コピー)があれば、それも合わせてお送りください。
- ・ お送りいただいた教育・研究成果について、附属図書館で著作権上の確認を行い、リポジトリで公開します。

4. 送付先・問合せ先

学術情報部学術情報課(附属図書館) [リポジトリ担当]

内線: 3156 E-mail: rephelp@cc.hirosaki-u.ac.jp

附属図書館本館「文庫・新書コーナー」等の整備

平成23年4月26日、総合情報処理センターのサテライト端末が「PCサテライトコーナー」へ移転したことに伴って空きスペースとなっていた附属図書館本館入館ゲート付近のスペースに、カーペットの張替えや壁紙の張付けなどの整備を行い、図書館所蔵の文庫・新書約3,000冊を集約した「文庫・新書コーナー」を設置しました。

「文庫・新書コーナー」には、それまで旧書庫や開架書架に配架されていた「岩波文庫」「岩波新書」「岩波現代新書」「岩波ブックレット」「東洋文庫」「白水社文庫クセジュ」「講談社学術文庫」「講談社選書メチエ」「ちくま新書」「中公新書」「人物叢書」「Century Book 人と思想」が配置され、利用者がゆったりと閲覧できるように、中庭に面した窓際にソファを設置しました。

また、周辺には、「ピーターパン・バリ文庫」「太宰治研究文庫」「津軽学コーナー」など既存の文庫コーナーを集め、他大学の出版会出版物を集めた「出版会出版物コーナー」を新設し、さらに附属図書館の文系図書整備事業で購入した資料を配架しました。研究調査に、あるいはちょっとした息抜きに「文庫・新書コーナー」をご利用いただければ幸いです。

(情報サービスグループ 藤井真嗣)



遠藤学長の視察（平成23年4月26日）

図書館のグループ紹介 医学情報グループ

図書館職員の秘密

私たち医学情報グループは、本町キャンパスの医学部総合研究棟1階にある附属図書館医学部分館で仕事をしています。医学部分館は、学生さんはもちろんのこと、医学研究科および保健学研究科の教職員、附属病院の医師や薬剤師・看護師・技師の方、そして学外の医療従事者の方にも多く

利用されています。図書・雑誌の契約や登録などの管理部門は文京キャンパスにある本館で行っていますので、医学情報グループの仕事は、図書の貸出・返却、文献の取寄せ、参考調査依頼など、皆さんにも身近な利用者サービスが中心です。

さて、スポーツの世界で「心・技・体」という言葉をよく耳にします。静かな図書館の雰囲気からはちょっと意外かもしれませんが、実は図書館の仕事も時としてアスリート並みの「心・技・体」な毎日であったりします。

心一まごころこめたサービス。

医学部分館には日々、様々な目的をもった様々な利用者の方が来館されます。授業で使うテキストを借りたい方、新聞で情報収集したい方、雑誌のコピーをとりたい方、文献検索をしたい方、国家試験の勉強をしたい方。様々な目的をもった利用者の方々が、限られた館内の中で気持ち良く過



医学情報グループ職員（6名）

ごせるよう、気配りを忘れない図書館でありたいと思います。

技—ご要望に応えられるように。

相互貸借・参考調査業務も医学部分館の大切な業務です。医学系の図書館のため、「手術の前に読んでおきたい!」「大至急、調べてほしい!」と急ぎで学外からの文献取寄せや参考調査を利用される方も多くいらっしゃいます。迅速かつ確かな資料提供ができるよう、能率アップやご要望に応えられる検索スキルの向上は日々かかせません。

体—力仕事で快適な図書館を。

皆さん、図書館職員は意外に力持ちだということをご存じでしょうか? 女性の多い職場ですが、スタッフ一同、かなりの強力アームを持っており、体力・握力・腕力にはちょっとした自信があります。これは、毎年購入して増えていく図書・雑誌を限られた書架に入れていくため棚を組み替えたり部分的に書庫へ移動したり、という図書館で

日々行われる力仕事による鍛錬の結果であります。また医学部分館は、医学研究科と保健学研究科の校舎内にも保存書庫を持っているため、私たち医学情報グループはさながら「本の引越し屋さん」といったところでしょうか? 体をはった力仕事で、快適な学習・研究環境をつくるお手伝いをしています。

最後に皆さんにお願いがあります。私たち図書館職員にとって、利用者の方との質問のやりとり・コミュニケーション、依頼を受けて調査した経験・過程、蔵書のことや館内設備に対してよせられる要望、それらすべてが経験となり知識となり、スキルアップへとつながります。図書館は皆さんに育てていただく図書館でもあります。どうぞ医学部分館にご来館ください。そして私たちとともに活気あふれる図書館をつくっていただけることを願っています。

(医学情報グループ 須田 久美子)

本学関係者の著作で、図書館に寄贈された図書と資料の一覧

平成22年10月～平成23年3月受贈分

学部名	寄贈者名	資料名	発行所	発行年	数	所蔵先
人文学部	長谷川 成一	弘前城築城四百年 城・町・人の歴史万華鏡	清文堂出版	2011	2	本館 分館
名誉教授	松木 明知	蘭医佐々木元俊その生涯と業績	津軽書房	2010	1	本館
		平安文学と津軽語彙	津軽書房	2010	1	本館
弘前大学出版会		基礎物理学実験の手引き 平成22・23年度版	弘前大学出版会	2010	2	本館
		成田彦栄氏考古・アイヌ民族資料図録	弘前大学出版会	2010	2	本館
		東北発!地域に根ざした技術・家庭科の授業	弘前大学出版会	2010	2	本館
		EU統合の流れの中で東欧はどう変わったか	弘前大学出版会	2010	3	本館2 分館1
		白神自然観察園の動物 (1)概要編	弘前大学出版会	2011	1	分館
		白神自然観察園の植物 (1)林床植物編	弘前大学出版会	2011	1	分館
弘前大学生生活協同組合		弘前大学入学記念アルバム 平成22年度	弘前大学生生活協同組合	2010	1	本館



弘前大学附属図書館報「豊泉」第33号

発行日：平成23年5月31日

編集／弘前大学附属図書館広報委員会

発行／弘前大学附属図書館 〒036-8560 青森県弘前市文京町1

TEL 0172(39)3162 FAX 0172(39)3171 URL <http://www.ul.hirosaki-u.ac.jp/>

標題の「豊泉」は、明治9年の「仏国学制」付録上巻中の「人智ヲ広ムルノ豊泉アリ」の文に基づき、松原邦明名誉教授命名 題字：藤原楚水編「書道六體大字典」(三省堂)より